

《まちの話題》

新春に一年の豊凶を占う 木野崎・香取神社で厳かに「オビシヤ」

～令和3年1月10日(日)正午から～

利根川下流域を中心に広く分布する「オビシヤ」と呼ばれる神事は、行事の一部に弓矢で的を射るため、その年の豊凶を占う伝統行事とも考えられるが、弓矢を用いないオビシヤの例も多く、新たな氏子入りの儀式や、豊作を事前に祝う予祝儀礼、祭祀を氏子が交代で務めるための当番の引き継ぎの儀式など、さまざまな要素がうかがえる民俗行事として行われている。

市内でも、弓を射るスタイルのオビシヤは数少なくなってきたが、木野崎の香取神社は比較的古いオビシヤの形式を伝えている。

地域内を南北2組に分け、それぞれに「ゴシン」といわれる御幣（ごへい）の入った小さな石のお宮を保管・管理するヤド(宿・屋頭)の当番を決める。

また、鳥居に掛けられる新しい注連縄（しめなわ）や、神饌（しんせん）の膳も南北で一つずつ用意される。

射礼の弓には、接骨木（ニワトコ）の木が用いられ、的と矢は、篠竹と紙で作られるが、祭礼が終わると次のヤドにゴシンを受け渡す「オトウワタシ」が行われ、受け取った家では翌年のオビシヤが終わるまで、大切にゴシンを守る。

香取神社には、宝暦6(1756)年と文化5(1808)年、明治44(1911)年の三冊の記録が残っており、その時代のオビシヤの様子を伝えている。

令和3年の香取神社のオビシヤは、令和3年1月10日（毎年1月1日から3日までを除く最初の日曜日）正午から行われる。見どころは、地区の人たちが交替で、社殿前から参道の途中に設けられた的を目がけて力強く矢を放つ場面である。

※今後のコロナ禍の状況によっては中止となる場合があります。

問合せ＝生涯学習課・電話 04-7125-1111 内線 2651

野 田 市